

Ⅱ-2

発問・助言

その一言で、はっと気付いたよ！

● 学習指導過程に沿って、精選し、計画的、意図的に発問する。

○ 導入時の発問（一気に授業に引き込む！簡潔に）

- ・ 子どもの学習経験や生活体験を探る。
- ・ 前に学習したことを確認させる。
- ・ 子どもの興味・関心、問題意識を高める。

〇〇について経験したことはありますか。

〇〇についてどうしてだろうと思うことはどんなことですか。



○ 展開時の発問（考えや思いを深めたり広げたりする）

- ・ 課題をつかませる。
- ・ ヒントや手がかりを与える。
- ・ 矛盾、対立、葛藤を生んでゆさぶる。
- ・ 発想の転換を図る。
- ・ イメージを広げたり、多様な考えを引き出したりする。

〇〇と□□を関係付けると、どんなことが考えられますか。

もし、この条件がなければ、〇〇はどうなりますか。

これらのことから、これから先どのようなことが想像できますか。



○ 終末時の発問（学習の結果を整理したり評価したりする）

- ・ 学習した内容を整理する。
- ・ 抽象化、一般化する。
- ・ 学習を振り返り評価する。

この時間で考えたことを、三つにまとめてみましょう。

今日分かった〇〇は、みなさんの生活の中のどんな場面で使えますか。



● 学習を深めるよい発問とは？

○ 簡潔、明瞭である

- ・ 何を考えればよいか全員に分かる。
- ・ 学習目標に結びついている。

Aグループの考えは、その他の全ての場合にもあてはまるでしょうか。



○ 広がり、深まり、方向付けがある

- ・ 想像、対比、批判を促したり、新しい考えを引き出したりする。
- ・ 意図的に相互の意見を対比させて、多様な考え方を引き出す。
- ・ 子どもに発問させ、それを学級全体で解決していく。

○ 具体的かつ的確である

- ・ どう考えればよいのが全員に分かる。
- ・ 絵や写真、図表などを提示しながら発問する。
- ・ 子どもの実態に合わせる。

〇〇ですね。さらに、『しかし』と考えてみたらどうなるでしょうか。



※ 発問に見られるよくない例

- ・ 子どもに考えるゆとりを与えないで、次々と問い詰めていく発問
- ・ 一問一答式の質問だけで進める授業展開
- ・ 観点が不明確な発問（例）「駅まではどのくらいかかりますか？」



タイミングよく、子どもの思考を方向付けるように助言する。

- 方向・目的・方法・技術などについて指導する

Aさんの考え方のよいところはどこだろう。

今まで勉強したことが使えないかな。前の時間のノートを見よう。



比べて考えることが大切だよ。

〇〇に着目して、同じ仲間に分けてみたらどうなるかな。

- 学習上のつまずきを明らかにし、適正な判断に基づいて学習の改善を促す

〇〇のことから考えているね。今度は□□のことからも考えてみよう。



あなたのやり方で、〇〇のところをやってみると、どうなるかな。そこがうまくいっている□□の人の意見を聞いて、別のやり方を試してみよう。

学習を深めるよい助言とは？

- 子どもの思考に寄り添い、共感的な言葉で、称賛や激励を
・ 何が、どうよいのか、具体的に褒めることが大切です。

〇〇が前回より大きく伸びたね。

- 子どものつづやきを全体に広げて

今、Aさんがいいことを言ったね。みんなにもう一度言ってくれますか。

- 学習活動が停滞したときは、整理を

- ・ 学習活動が停滞したときに、考える内容を焦点化したり、方向を示したり、原点に立ち返らせたりする等、適切な整理を行う。

- 正しい・間違いだけに焦点を当てないで「誤答から学ぶ」雰囲気づくりを

惜しかったね。でも、大きなヒントになるね。みんなのために、どうしてそう考えたか教えてくれる。

- 「ゆさぶる」ことで、知的好奇心の刺激を

- ・ 子どもが確信している「正解」に対して、異論を唱えてみる。

えっ、本当にそうなのかな。どうすれば確かめられるかな。

- ・ あえて事実と反することを投げかけ、それが間違っていることに気付かせたり、反論させたりする。

先生は〇〇と考えるけど、誰か根拠をあげて反論できるかな。



〇〇の場合にも当てはまるのかな。

※ 助言に見られるよくない例

- ・ 具体性のない助言「もっとがんばれ。」
- ・ 考えさせる時間を十分に与えないで、指示ばかりする助言

ワンポイント！

教師の沈黙が子どもの思考を促す

発問や助言の後、「間」をとって考える時間を確保していますか。次から次に問いかけたり助言したりすると、子どもはじっくりと考えられなくなります。少し困難な課題に自分で取り組ませる「間」を設定することは、子どもに、粘り強く考える態度や挑戦する態度を培うことにつながります。「仕掛けて待つ」姿勢を大切にしましょう。